

# えみちゃんレポート No7

茨城県政報告

茨城県議会議員 設楽詠美子(しだらえみこ) 住所 筑西市二木成993  
電話 24-9119 FAX 48-8022



今日は、海の日ですね。みなさまいかがお過ごしですか？ 先月の6月17日は上月副知事にお越しいただき、ご講演いただきました。「まちづくりは人がつくり、今ここにいる人からはじめることが大切であること。成功の反対の言葉は、失敗ではなく、なにもしないこと。良い失敗は、たくさんすることで、大きな実績につながる。」素晴らしいお話をいただき、改めて心を込めたまちづくりをしていきたいと感じたときでした。上月副知事、7年3か月間、茨城県のために本当にありがとうございました。



## 新しい公共の提案型モデル事業、筑西市から2事業の挑戦！

「官」だけでなく、市民1人1人、NPO「Nonprofit Organization 民間非営利組織」や企業等が公共性のある事業の担い手として働くことを新しい公共といいます。

NPO等が行政と協働で地域の課題に向けて取り組む「提案型モデル事業」に筑西市から2件(応募総数26件)の応募があります。

小栗地域の「誇れる城山を育てる会」が中心となり筑西市、茨城県、そしてNPO法人と連携して城山の整備や自然体験のイベントを開催する事業と、関彰商事を含む県内の企業と茨城大学等が連携している「いばらき自然エネルギーネットワーク」による省エネルギー・再生可能エネルギーの実践主体発掘及び形成促進プロジェクトという事業が応募しています。

総事業費で1億7千万円ほどの応募がありました。7月9日にプレゼンテーションが行われ、県内の12人の審査員により、事業の採択が決定されます。筑西市からの団体の結果が楽しみです!!



## ボランティア連絡協議会の第二回会議の様子！

筑西市で活動する里山を整備する9団体に加え、NPO法人「温かい家庭環境を考える会」と幸町の自治会の皆様等が集まり、森林湖沼環境税を使った元気な森林づくり活動支援事業(25万円・全県で20団体)や身近なみどりの整備推進事業(10/10補助)についての説明会と意見交換会を開催しました。

特に、元気な森林づくり活動支援事業は、県西地域の採択率が低いこともあり、採択に向けた事業の計画方法や文章の書き方等も含め県西農林事務所の林業振興課よりご説明をいただきました。

採択方法は、7人の審査員が団体名を隠し、妥当性や継続性等に関する点数をつけ事業内容が優れていれば一つの市から多くの事業の採択となります。

6月22日が締め切りで筑西市からは3団体(県西地域7件)の応募が提出されました。結果が楽しみです。



## 地域の声が、政策をつくる！

### その1) 農業用ビニールハウスに補助金決定

5月6日に、竜巻・雹の被害により筑西市は、井出姥沢、小栗、蓬田にかけて21軒の農業用のビニールハウスが被災を受けました。スイカ・イチゴ・キュウリ・トマトの産地であり、ハウスの被害総額は約4千2百万円に及びました。

5月10日は、小栗集落センターで、ハウスを被災した農業者が集まり、原中前日本医師会長と福島衆議院議員にもお越しいただき意見交換会を開催させていただきました。

「高齢になり、借金をしてハウスを建て替えるのは難しい」「農業共済は、5年たつと2割の評価になってしまい困っている」等の声から、農業用ハウスの建て替えに対する補助を国・県・市よりいただけるよう要望することになりました。

5月12日には、中川防災大臣が筑西市を視察した際に、要望書を提出させていただきました。

5月19日には、岩本農林副大臣が筑西市を視察した際にも、同様の要望を行いました。

5月22日には、異例の速さで国からの補助金額(割合3/10)が決定し、24日には筑西市でも決定(割合1/3)が相次ぎました。25日には、井出姥沢集落センターで補助金に関する説明会を行いました。茨城県からの補助金がないことから竜巻・雹の被災者連絡会を結成し橋本知事への要望を行うこととしました。

6月1日に橋本知事への要望を行い、6月4日には補助金(割合1/10)が決定しました。

### ◎ボランティア・寄付が集まりました

竜巻・雹の被害に対して、20名もの県内外のボランティアのみなさまが集まってくださり、ハウスの修復、撤去作業を行いました。参加されたみなさまは自分自身が勉強になったと大変喜ばれ、帰って行かれました。

また、四葉生協とカラオケ友の会雅会のみなさまから筑西市へ寄付をいただきました。

直接お手伝いしてくださる方、寄付金を集めてくださる方、その時々でできることを探し行動に移す大切さを実感できたときでした。



### その2) 30kmの規制スタート予定 ~大切な命を守るため~

雁沼地域と第二折戸地域の自治会・小中学校の校長先生方より、雁沼・第二折戸地区の雁沼集落センターから折戸橋までの道路の「最高速度30km毎時」の速度規制に関する要望をいただきました。道路は、朝夕の通勤時間にかけてスピードを出す車両が多く、そこに生活しているお年寄りをはじめ子どもを持つ母親たちが不安を募らせておりました。

昨年の9月に筑西警察署に要望書を提出するとともに、今年の5月に私への相談がありました。茨城県の県警本部の道路規制課に進行状況を確認したところ、筑西警察署から「今後、更に調査を進めて規制の可否について判断して行く。」との回答をいただきました。

そこで、再度、要望を行い、さらに住民集会を開催しました。2人の警察官に参加いただき、道路の最新の調査結果の報告に合わせて、意見の交換会を開催しました。生きた規制や制度を作るためには、生活している住民の皆様の声が大切です。いよいよ、30km規制がスタートすることになります。大切な命を守るために、車の速度には、十分なお配慮をお願いします。



## 放射性物質に関する健康調査について

保健福祉委員会で再三、茨城県での独自の健康影響調査に関する要望を出してきましたが、健康には問題ないということから検査は行わない方向性が示されています。

しかし、放射性物質への心配をめぐいきれない子育て中のお母さんがいます。今では、ママ友に言う「まだ気にしてるの?」と言われるのを恐れて1人不安になっているお母さんもいます。

お母さんの不安に寄り添うためにも、福島県の県民放射線医学健康管理センターが連携する茨城県で行える検査機関での検査ができるようにすべきと考えます。福島県は、約700億もの予算により内外に住む福島県民の子どもたちの調査を行うことが決定しております。茨城県も、希望する母親が子どもたちに検査をできるように専門機関との連携を取るべきです。

茨城県は、それでもなお不安に寄り添うのは、説明会の開催が最もよいと断言しています。



## 母子自立支援員が筑西市にも、必要です!!

茨城県内の母子家庭の数は、16567世帯(H22)であり12273世帯(H12)からすると年々、増加傾向にあります。母子家庭でも、父子家庭でも、両親がいなくても、子どもたちは1人の人間として尊重され、地域の大切な子どもたちとして守られなくてははいけないと考えます。

母子家庭の年収(213万円(H17))は、全世帯の年収(564万円(H17))と比べると半分以下の状況です。以上の状況からも、母子及び寡婦福祉法8条により、「都道府県知事、市長及び福祉事務所を管理する町村長は、社会的信望があり、かつ、次項に規定する職務を行うことに必要な熱意と見識を持っている物のうちから、母子自立支援員を委嘱するものとする。」となっております。茨城県内の5つの県民センターには14名(県西県民センター3名)の母子自立支援員が委嘱されておりますが、筑西市を含む県西地域の市町村には、母子自立支援員がおりません。県内には、母子自立支援員連絡協議会が中心になり研修等を行っておりますが、筑西市としての参加がなく県と市の連携が十分にとれていない状況です。今後、社会的に女性の立場が弱いということからも母子自立支援員が必要です。



## ひきこもりさんへの地域の理解が大切です!

茨城県には、狭義の概念(概ね6か月以上自室から出ない等)では、6100世帯、広義の概念(概ね6か月以上普通は家にあり、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する方を含む)では、16,000人もひきこもりの方がいると推定されます。

ひきこもり相談支援センターや12か所の保健所が相談を受けていますが、平成23年度の12保健所での面接による相談者は234人/年、筑西保健所だけみると24人/年にとどまっております。

「ひきこもり」ってなんだろう? 私たちは様々なストレスのなかで生活しています。気づかないうちにどこかでがんばって耐え続けていることもあります。これ以上疲れないように、殻に閉じこもり自分をまもろうとする、この状態を外から見ると「ひきこもり」になります。ひきこもっていること自体は悪いことではありません。次に動き出すエネルギー補給のために、必要な休息の時間です。地域で温かく見守り社会に戻れるようにしましょう!

## 新中核病院の整備について!!

筑西市は、県西総合病院の運営母体である一部事務組合から撤退し、中核病院づくりを行う方向性を示しています。県西総合病院の許可病床数のうち旧明野町・旧協和町分の病床数を分割し、300床を目標に建設できるよう桜川市に要望しております。

今度こそは地域に愛される中核病院ができるように、筑西・下妻医療圏内の県議会議員による議員連盟をつくり力を注いでいきたいと考えています。また、桜川市から病床の分割が容認されない場合を考えて、筑西・下妻医療圏内で使われていないベットを集約し300床を目標に建設できるように調整できないか相談する予定です。中核病院が建設されるまで、あきらめずに進んでいきます。

桜川市での否決は、とても残念でした。筑波大学病院で開催した両市の議員を対象に開催した勉強会では、医師確保を考えると県西総合病院・市民病院の規模では難しいこと、各病院が役割を分担してより専門的な医療を受けられるようにすることが重要であることなど、現場での状況を交えて医学的な観点からのお話をいただきました。



えみちゃんレポートNo. 6に県税の説明に誤りがありました。申し訳ございませんでした。

(間違い) 県税には、県民税、法人二税(県民税・法人事業税)

(正しい) 県税には、個人県民税、法人二税(法人県民税・法人事業税)

## これからも、みなさまの声をお聴かせください!

### ●女性のためのタウンミーティング

母乳育児シンポジウム 7月18日(水) 10時より

まちづくりカフェ ピーチ(二木成993)

◎楽で楽しい母乳育児 伊東 厚子 助産師

◎助産師なんでも電話相談の報告 茨城県助産師会 佐藤 三恵子 助産師

### ●ひきこもりさんのたまり場 ピーチひろば 毎週火曜日 午後1時~5時

退職された教員で、ご自宅で家庭教師をしてくださる先生を募集中です。

登録は、NPO法人地球の保健室(080-6779-0846)までお願いします。

### ●筑西市で米粉パン給食を考えよう!

8月19日(日)午後1時より ぴあしらとり(小埜861)

### ●茨城県議会 傍聴バスツアー開催(しだらえみこが一般質問を予定)

9月18日(火) 9時集合 県西生涯学習センター(野殿)

### ●意見交換会や県政報告会を随時受け付けております。皆様の声を議員活動に生かしてまいります。

連絡先 しだらえみこ事務所 筑西市二木成993

Tel 0296-24-9119 Fax 0296-48-8022

eshidara@peach.plala.or.jp http://www9.plala.or.jp/eshidara/

※えみちゃんレポートは議会終了後に新聞に折り込んでおります。

No. 1~No. 6を希望のかたはご連絡下さい。

設楽 誅美子

